

NEWS LETTER KUMAMOTO

■発行: 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
 ■Publisher: Kumamoto International Foundation
 4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806
 TEL: 096-359-2121 / FAX: 096-359-5783
 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp
 URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/

2018.Spring Vol. 115



平成30年度KIF事業取り組みについて



平成 30 年度は熊本市国際交流振興事業団としては、現在の国際交流会館指定管理期間の最終年度となります。今年度も「多文化共生社会まちづくり推進事業」「地球市民育成事業」「国際化推進事業」「文化施設管理運営・まちづくり推進事業」を柱に多彩な事業を実施していく予定です。

計画した事業の確実な実施とその成果の確認を行っていくと共に、本年度は日仏都市会議熊本の開催や熊本市とアメリカ・サンアントニオ市との姉妹都市締結 30 周年事業、翌 2019 年に控えた世界女子ハンドボール大会やラグビーワールドカップ、2020 年の東京オリンピック、パラリンピックが開催され、国際的イベントに対応する為の市民ボランティアの育成や観光情報の収集等を実施していく予定です。

その中でも新たにに取り組んでいく3つの重点事業「市民グローバルサポーター制度（仮称）」「災害時外国人支援システム K-SAFE の運用」「地域日本語教育スタートアッププログラム・西区新設」を取り上げ、その内容について紹介します。

市民グローバルサポーター制度

市民の方々には、日常会話程度の外国語が話せる方が多数いらっしゃいます。しかしながら、生活している中で誰が日本語以外のどんな言語を話せるかが分からないのが実情です。そのような中、学生から高齢者まで、少しでも外国語が話せる市民を掘り起こし、話す機会が増えれば市民の方々の国際化意識が高まるでしょう。外国語を話せる市民の方々がどの言語が話せるかわかるようになれば、海外からの訪問者の方々も気兼ねなく話しかけることができ

平成 30 年度 KIF の事業取り組みについて
 《今年度の重点事業》・・・P1～P3
 多文化共生月間事業報告・・・P4～P5
 新しい技能実習制度とその課題・・・P6
 コムスタカー-外国人と共に生きる会 中島 眞一郎 氏

目次 Contents

第 6 回全国学生
 ボランティアフォーラム報告・・・P7
 ちょっと日本語/きふプロ
 平成 30 年度賛助会員・・・P8

るのではないのでしょうか。このように、海外の方々に気持ちよく過ごしていただける環境を整えば熊本の国際化や活性化も促進されていくのではないかと考えます。たとえば、買い物や街中散策をされる時に、商店街に外国語にも対応できるお店が増えれば、気軽に買い物もできるようになると思いますし、国々の習慣に合わせた食の提供ができれば、海外の方々の外食の機会も増え、熊本の商店街のイメージも変わってくるのではないかと思います。このように、街中の賑わいを創出するような環境づくりを商店街の方々のご協力を仰ぎ、市民グローバルサポーターによってサポートできればと考えます。

2019年の女子世界ハンドボール大会、ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック、パラリンピックへ向け「国籍や人種に関係なく誰にでも優しい上質な都市くまもと」を掲げ、この「市民グローバルサポーター制度（仮称）」の構築を今年度より行っています。

市民グローバルサポーターは、日本人だけではなく日本語が話せる外国人住民にも協力いただきたいと考えています。

災害時外国人支援システムK-SAFEの運用

平成28年4月14日・16日に起きた熊本地震。各地で甚大な被害をもたらし、今なお復興への取組が進められています。

熊本地震の際には多くの方々からのご支援をいただき、熊本市国際交流会館避難所運営と並行して災害多言語支援センターを立ち上げ、多言語での災害情報発信、避難所巡回、生活再建相談会等の在住外国人支援を行うことができました。これらの活動ができた理由の一つとして日頃からの様々な“繋がり”がありました。様々な専門家の方々や外国人コミュニティのキーパーソン、くらしのにほんごくらぶなど地域日本語教室でのボランティアさんとの繋がりで。

私達が行う様々な事業を日頃からいろんな方々と連携しながら実施してきたことが繋がりを生み、今回の災害対応で大きな力となりました。しかしその一方でいくつかの課題も見えてきました。

ひとつは災害情報の多言語化が想定よりも遅くなったこと、その他に、避難所には避難せず、自宅避難や車中泊、公園等へ避難した在住外国人が予想より多く、避難状況確認や情報提供ができなかったこと、また、海外からの旅行者に対する支援対応が困難だったことがあります。

熊本地震から2年が経過しました。震災前と比べ熊

本市では在住外国人の増加、国籍・在留資格の多様化が着実に進んでいます。

平成28年3月末時点で4,497人だった熊本市在住外国人数が平成30年4月末時点には5,476人と979名増加しました。今後も永住、定住、留学、技能実習生等で中長期滞在する外国人数は増加が考えられます。また政府による積極的な訪日キャンペーン実施や観光ビザ免除等の政策による外国人観光客も増加しています。

在住外国人、訪日外国人旅行者が増加する中、滞在中に自然災害等に巻き込まれる危険性も増加しているといえます。

この様な熊本地震での経験やその後の在住外国人状況の変化等を踏まえ、在住外国人に加え訪日外国人の安否確認や多言語で災害支援情報配信が効率的かつ的確に実施できる災害時等外国人支援システム「K-SAFE」を構築しました。「K-SAFE」は熊本市より提供される在住外国人居住データ及び事業団で独自に収集した相談履歴、日本語学習履歴等を含めた情報を蓄積した災害時の減災へ繋げる外国人居住データベースです。平成29年度（一財）自治体国際化協会（CLAIR）多文化共生のまちづくり促進事業に助成申請し、採択され、構築を行いました。

今回のシステムの特徴は事業団ホームページから短期滞在者（旅行者等）が熊本滞在中に災害メール配信サービス登録が行えること、災害時には災害メール登録者へ一斉送信を行い、簡易応答テンプレートを活用することにより安否確認が迅速に行えること、在住外国人が必要とする情報を相談履歴等も基に効果的に行えることなどがあります。

熊本市国際交流振興事業団
Kumamoto International Foundation

短期滞在者向けメール登録

Japanese English Chinese Korean

下記の必要事項をご記入の上、メール登録してください。
熊本県に滞在期間中に地震などの災害が起きた際、避難所情報などをメールにて配信します。
熊本での滞在を安心安全にするために、ぜひ登録してください。

熊本に滞在が、不安なこと、相談したいことがあれば熊本国際交流振興事業団までご連絡ください。
熊本市国際交流振興事業団 今宮北土佐ビル
TEL:096-359-4956 e-mail: jpf-info@kumamoto-if.or.jp

名前

誕生日

性別 男性 女性

メールアドレス

国

ことば

メールのことば

日英にいち目的

いつまで日英にいちするか

(日本語版)
《ホームページでの登録画面》

今後、このシステムを有効に活用する為、外国人コミュニティとの更なる連携強化や事業団が行う国際交流事業、地域日本語教室等様々な機会を通じて在住外国人との繋がりを構築し、外国人居住データベース情報拡充に努めること、災害メール登録者数を増加させることなどが課題となります。これらの課題は私達だけで解決できるものではありません。事業団の活動を支えていただいているボランティアの皆さんや外国人コミュニティ、地域住民の皆さんに協力いただき、知恵を絞りながら課題解決に向けて努力していきたいと考えています。

また災害時に在住外国人のサポートを行う災害時外国人支援多言語サポーター（仮称）養成講座を開催します。このサポーター制度は大規模災害時に多言語翻訳や避難所巡回などにご協力していただくものです。この養成講座を受講されたサポーターの皆さんに協力いただき、災害多言語情報テンプレートを充実させ、迅速に多言語での災害情報提供ができるよう事前準備を行っていききたいと考えています。

昨年度も実施しました外国人向け防災訓練も外国人コミュニティメンバーや災害時外国人支援多言語サポーター、地域住民の皆さんと協力してより実践的な訓練を企画していききたいと考えています。外国籍住民が普段から生活の拠点である地域社会と共生し、災害時にも情報弱者とならず安心して快適に暮らすことのできる多文化共生社会構築を推進していききたいと考えています。

スタートアッププログラム

西区での日本語教室新設

【地震後動き出したこと…】

KIFでは、平成28年度より文化庁地域日本語教育スタートアッププログラムを活用し、新しい地域日本語教室の開設プロジェクトをスタートしました。熊本地震の際、地域日本語教室のつながりが多くの助け合いを生み、セーフティネットの役割を果たしたことから、新設する教室を「多文化共生の拠点」と位置づけ、平成29年6月には東区に新しく「東区くらしのほんごくらぶ」を立ち上げました。この教室は、「災害に強い地域」、「誰一人置き去りにしない社会」の実現を目指し、教室を支える日本語サポーターを養成、生活に関する身近なことや日本の季節行事をテーマに



《東区くらしのほんごくらぶお菓子作りの様子》

よる“顔の見える”関係作りを行っています。

【平成30年度の取組み】

現在、中央区・東区・北区の3区では日本語教室を開催していますが、



《おしゃべり活動の様子》

西区・南区には日本語教室がありません。そこで、KIFでは平成30年度に、外国人住民が集住している区域や多くの外国人が働いている場所がある西区での日本語教室新設を計画しています。日本語教室に、地域の外国人と日本人が集まり、生活に必要な情報を交換したり、お互いの文化や習慣を学び合ったりすることで、地域住民の交流から多文化共生社会を推進していききたいと思えます。教室開設に伴い、今夏より西区の日本語交流サポーターを募集し、その後オリエンテーション、養成講座を実施します。養成講座では、外国人にとってわかりやすい日本語である「やさしい日本語」



《サポーターオリエンテーションの様子》



《サポーター養成講座の様子》

や異文化コミュニケーションなどについて取り上げ、交流のコツを学びます。「外国について知りたい」「外国人のお手伝いがしてみたい」という

方など、ご応募はどなたでも可能です。興味のある方はお気軽にオリエンテーションに足をお運びください。

現在、熊本市の外国人人口は年々増加し、今後も増え続けることが予想されます。皆さんの暮らしの中でもコンビニで働く外国人を目にする機会が増えたのではないのでしょうか。在住外国人は日頃の生活の中で、言葉の問題や文化の違いから、不安や戸惑いを感じる事が多くあります。そんなときに、気軽に日本語で質問したり、困っていることを相談したり出来る場所が日本語教室であり、外国人住民の“心のよりどころ”であるともいえます。そのような居場所が地域に増えることで、外国人と日本人がお互いに歩み寄り、誰もが住みよい街・熊本市となることを願っています。

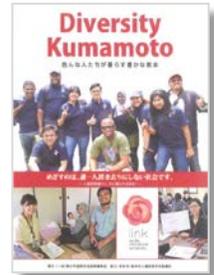


2017年度 多文化共生月間事業報告



当事業団は、2008年度以来、2月を「多文化共生月間」と定め、写真パネル展やセミナーの開催を通して、多様な人・文化・習慣と触れ、学ぶことができる機会を提供してきました。今年度（2017）は、熊本市および熊本市人権啓発市民協議会の協力をいただき、次の事業を実施しました。

国際交流会館で無料配布中
“Diversity Kumamoto
（色んな人たちが暮らす豊かな熊本）”



◆ 多文化共生写真パネル展：

“外国人のレンズをとおしたクマモト”写真パネル展、熊本の外国人住民コミュニティ紹介パネル展、外国人住民の書道と俳句作品展（2月14日（水）～28日（水）、国際交流会館エントランスロビー）

◆ 外国人コミュニティの方々との多文化サロン：

パート1 “熊本で旧正月を楽しむ！”（中国、2月10日（土）、国際交流会館2階交流ラウンジ）、
パート2 “熊本で学ぶ！”（熊本大学留学生、2月17日（土）、国際交流会館2階交流ラウンジ）、
パート3 “イスラームの生活、マスジド訪問”（イスラーム教徒（ムスリム）、2月24日（土）、熊本イスラミックセンター）

◆ 世界をよく知るセミナー：

“イスラームと平和”（杉本サルマン氏講演、ヒジャブ体験、2月24日（土）、国際交流会館2階交流ラウンジ）

◆ 多文化共生セミナー：

“グローバル化と社会課題”（グローバルワークキャンプ タイ派遣プログラム報告、イギリス社会における多文化共生、熊本でどんな共生社会を目指すのか！、2月25日（日）、国際交流会館3階国際会議室）

◆ リーフレット “Diversity Kumamoto（色んな人たちが暮らす豊かな熊本）” の発行：

多文化共生月間の歴史、数字で見る熊本市の外国人住民の状況、2017年度多文化共生月間に協力いただいた外国人住民コミュニティの紹介、誰一人置き去りにしない社会へ向けたメッセージを記載した、広げるとポスターサイズになるリーフレットの発行

関連イベントとして、日本とトルコの絆を深めた「1890年のエルトゥールル号海難事故」と「1985年のテヘラン邦人救出劇」の2つの事件を通して、人が人を思う気持ちの大切さを描いた映画“海難1890”を上映した第48回ヒューマンライツシアターが開催されました。（主催 熊本市人権啓発市民協議会、2月27日（火）、健軍文化ホール）以下、各イベントについて実施状況を報告します。

多文化共生写真パネル展

前半は、熊本地震後のクマモトを留学生が撮影した36作品を展示しました。

多くの建物が壊れ、水・ガスが使えず、道路・交通機関が麻痺し、尊い命を奪った熊本地



《パネル展示の様子》

震は、留学生をはじめ外国人被災者にとって、言葉、文化、習慣の違いや母国に地震がないことから日本人住民以上に不安と恐怖の連続でした。こんな中、支え合い、みんなの力で復興が始まったクマモトの姿は留学生へ元気を与えました。作品に添えられたメッセージには、窮境にも強く助け合った日本人住民への感謝と絆の大切さが多く書かれています。今やクマモトは彼らのフルサトです。

後半は、中国人、留学生、イスラーム教徒、外国人妻の会など、外国人コミュニティの活動をとおして、色んな人たちが暮らす豊かな熊本を紹介しました。熊本地震時、各コミュニティの SNS やメールの情報交換は大きな助けになりました。一方、今後は、コミュニティが自治会など地域の日本人住民とつながっていくことが期待されます。一例として、震災後に始まった日本人・外国人住民が集い、買い物や食べ物など身近なテーマを「やさしいにほんご」で話し合う「東区くらしのにほんごくらぶ」の活動を紹介しました。

外国人コミュニティの方々との多文化サロン

中国、留学生、イスラム教徒の各文化、生活をテーマに3週連続で開催しました。

中国サロンのテーマは、“熊本で旧正月を楽しむ！”でした。旧正月のイメージは、華やか、爆竹、赤色の装飾。熊本で暮らす中国出身の方々より中国各地の旧正月について発表していただきました。お祝いの食一つを例にあげても、東北地方では茹で餃子、南の地方や台湾ではお餅と、多様で豊かな文化に驚きの連続でした。



《中国サロンの様子》

留学生サロンでは、熊本大学留学生会と熊本地震経験プロジェクトに所属する留学生が活動発表を行いました。留学生だけでなく、地域コミュニティとの関わりや相互理解を大切にしていることが印象的でした。熊本大学には50カ国以上500人を超える留学生が在席しており、熊本でそれぞれの文化を尊重しながら、多様性を楽しみたいとの意見が多く出ました。



《留学生サロンの様子》

イスラム教徒とのサロンでは、彼らが礼拝に集うモスクを訪問し、礼拝の場所やそこでの生活を知ることができ、ハラール料理で楽しく交流しました。



《イスラム教徒サロン》
(モスク訪問時の様子)

世界をよく知るセミナー

前半は、NPO 法人千葉イスラーム文化センター理事長の杉本サルマンさんにイスラームと平和をテーマにお話いただき、イスラム教徒(ムスリム)にとって宗教はこころの安定を支える重要なことであること、また、宗教と共に生きる生活文化について学ぶ機会になりました。



《世界をよく知るセミナー》
(セミナーの様子)

後半は、熊本大学留学生のビルキスさんに、イスラム教徒の女性が頭にまとうヒジャブについて説明していただき、実際に試着体験を行いました。

イスラム教については、中東での紛争やISのテロ・武力行使など誤解がある中、宗教を生活文化として本来の目的である平和と繋げて考える機会になりました。

多文化共生セミナー

テーマは、グローバル化と社会課題。1部は、グローバルワークキャンプ タイ派遣プログラムに参加した田邊裕子さんと桑本始奈さん(共に熊本学園大学学生)が北部タイの少数民族アカ族の村訪問について報告しました。タイ国家の中で、多数派のタイ族や他の異なる民族と共生しながら暮らす少数のアカ族の村に、グローバル化と近代化の大きな波が押し寄せ、自然との共存のための色々な知恵や民族のアイデンティティが詰まった伝統文化が消えていく現状が報告されました。

2部では、熊本大学大学院先導機構博士課程教育プログラム「HIGOプログラム」推進室特任助教田辺寿一郎さんに、英国での多文化主義についてご講演いただきました。異なる言葉・文化を持った民族コミュニティが個々に存在していたブラッドフォード市での暴動事件から、統合(インテグレーション)や共生(インターカルチャー)施策の必要性が提案されました。



《多文化共生セミナーの様子》

3部では、長岡市国際交流センター長の羽賀友信さんをコーディネーターに、1・2部の国外の事例を下に、熊本でもグローバル化が進展する中での日本人・外国人住民の共生社会づくりの課題について、話し合いました。市民レベルでの対応の一つにグローバルコミュニケーション力を身につけることが重要であると提案されました。異なる文化背景を持つ人たちが暮らしていく社会では、自分の考えや思いを相手に明確に伝え、理論的に説明責任を果たしていくことが必要になることが確認されました。

まとめ

今回の多文化共生月間は、多文化共生社会を構築していく上で、異なる言葉・文化・習慣を持ち人々が、それぞれの言葉・文化・習慣に敬意を払い、お互いに理解していくことの重要性を学ぶ機会になりました。同時に、熊本市においてもグローバル化が進展し、多様な人たちが暮らしていること、そこでの人権意識を向上させていくことが大切であることを学ぶ機会となりました。

新しい技能実習制度とその課題

コムスタカー-外国人と共に生きる会

中島 眞一郎 氏

はじめに 技能実習法の施行

2016年11月18日に、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」(以下、技能実習法)が成立し、2017年11月1日から施行されました。

1、現行の技能実習制度とその問題点

(1) 技能実習制度の目的

技能実習制度は、在留資格「技能実習」により入国した者を一定期間日本国内の産業界で受け入れてその技能・技術・知識を修得させ、日本の技能・技術・知識の開発途上地域への移転を図り、その経済発展を担う人づくりに協力することを目的とした制度であり、「労働」目的のではないとされています。

(2) 技能実習制度の現状

2017年12月末現在 国内の「技能実習」の在留資格者は、27万4,233人、国籍別①ベトナム12万3,563人(45%)、②中国7万5,607人(28%)③フィリピン2万7,809人(10%)である。職種別では、機械金属、繊維衣類、食料品製造、農漁業など74職種(2016年)

(3) 不正行為・労基法違反・失踪者数

2016年、入国管理局による技能実習に伴う不正行為の認定数は 239機関、労働基準監督署による実習実施機関に対する監督指導数5,672件(うち労働基準法違反数約4,004件)、技能実習生の失踪者数5,058人、途中帰国10,648人、死亡4名。

九州内でも、2017年6月末現在2万5,659人、失踪した技能実習生は、入管によると2016年222名から2017年653名と急増している。

2、技能実習法による新しい技能実習制度

(1) これまでの技能実習制度の問題点

①保証金等を徴収するなど不適正な送出国機関が存在している。②監理団体や実習実施者の義務や責任が不明確で、実習実施体制が十分に確立していない。③民間機関である国際研修協力機構(JITCO)が、法的権限がないまま巡回指導を行っている。④実習生の保護体制が不十分である。⑤所管省庁等の指導監督や連携体制が不十分である。

(2) 技能実習生の保護政策

①技能実習の監理団体や実習実施機関への管理監督の強化(許可制・認定制・届出制導入)。②電話と電子メールに対応し、母国語による通報や相談窓口の整備と一時退避先の提供など技能実習生への相談支援体制の

整備。③監理団体や実習先に実習継続が困難な場合の届け出義務、対応義務を法律に明記し、実習生の転籍先の調整も含む支援実施するなど実習先変更支援体制の整備。④監理団体や実習実施先の法律違反事実に対して実習生が申告できることを法律に明記し、申告を理由とする不利益取り扱いに罰則(刑事罰)を整備。⑤刑事罰(罰則の整備)を科すなど。⑥関係行政機関等による地域協議会を設置する。⑦法的根拠と強制力を持つ外国人技能実習機構を認可法人として新設する。⑧送出国の政府と政府間取決めを作成する。

(3) 技能実習制度の拡充

① 技能実習期間最大3年間から5年間へ、

在留資格「技能実習3号」を新たに設け、優良な監理団体や実習実施機関に3年間実習終了後、一旦帰国し、最大2年間(4年目、5年目)の技能実習の受入れを可能とする。

② 技能実習生の受入れ人数の拡充

常勤従業員に応じた技能実習生の受け入れ人枠が最大5%から10%へ拡大する。

③ 技能実習生の受け入れ対象職種の拡充

2016年現在74職種133作業を、地域限定の職種や企業独自の職種、複数職種の実習の措置を認めて拡充する。また、「介護」の職種を技能実習として追加

3、技能実習制度の課題

今回の新しい技能実習制度の施行は、これまでの「現代の奴隷制度」や「深刻な労働搾取」など外国人技能実習生への人権侵害制度との批判をなくし、一部の悪質な受入れ機関(監理団体や実習実施機関)を淘汰し、優良な受入れ機関に優遇措置を施して、制度を発展途上国への技能移転という目的に近づける意図がある。しかしながら、送出国から来る技能実習生の9割以上が技能習得でなく労働目的であり、又日本国内の受入れ機関の9割以上が技能移転でなく安価な労働力として受け入れている実態がある限り、その意図は早晚破綻すると思われる。そして、限られた人員(全国に330人)しかいない外国人技能実習機構で守れる技能実習生の人権もまた限られたものとならざるを得ない。

今後とも拡大深刻化する日本国内の労働力不足に対して、建前と本音が大きく乖離している技能実習制度の拡充を図り、当面を乗り切ろうとする小手先の政策から、実態に合わせて、外国人労働者としての受入れを正面から検討して、段階的に実施していく政策転換こそ求められている。

第6回 全国学生ボランティアフォーラム 報告

報告者：田上 美奈（企画チーム）

（開催期間：平成30年3月2日（金）～4日（日））

今年で6回目を迎える全国学生ボランティアフォーラムは、国立青少年教育振興機構が主催するイベントの一つで、全国から参加する大学生達と大学生のボランティア活動を支援する大学等関係機関の担当者が集まり、分科会活動やシンポジウムを通して、それぞれに交流と学びを深めることを目的に開催されている。今年は3月2日（金）～4日（日）の期間、東京代々木のオリンピックセンターで行われ、約800人以上の参加者が全国から集まった。

オープニングシンポジウム

～ふみだす一歩、つながる一歩～ここでの出逢いをきっかけに～

初日の学生シンポジウムには、3人のボランティア活動をする学生と学生企画運営委員が登壇。「ボランティアとの出会い」「ボランティアをする上で大切にしていること」「不安なこと」についてそれぞれの考えを述べた。3人の共通点は、ボランティア活動の中心は、「まず、自分が楽しめること！」であった。活動前には、「本当に意味があるのか？」「必要とされているのか？」「仲間はできるのか？」など多くの不安がある。それでも、一歩踏み出し、同じ学生ボランティアや現地の人達との出逢い、つながることで生まれる、自分達自身が成長していく喜びを語っていた。



《シンポジウムの様子》

支援者全体会

フォーラム2日目は、学生、支援者とも分科会活動の日。支援者全体会について報告する。

「現場で学んだ若者たち—学生ボランティア、それぞれのその後」をテーマにパネルディスカッション形式で開催された。総合コーディネーター 近畿大学 西尾雄志氏、ファシリテーター（聞き手）立命館大学 木村響子氏、パネリスト 一般社団法人まるオフィス加藤拓馬氏、広告代理店勤務 山田久二裕氏、港区議会議員 NPO 法人グリーンバード 横尾俊成氏。三人のパネリストは、学生時代にボランティア活動に盛んに取り組んだ。彼らの学生時代の背景には、それぞれに9.11同時多発テロや3.11東日本大震災があった。未曾有な惨事に揺れる社会に対して、何かをしたいと立ち上がり、夢中に活動をした。いろいろな人との出逢いもあった。例えば、山田氏は、未来の子どもたちを憂い、毎日毎日、辺野古で米軍基地建設反対を訴え座り込むお婆ちゃんの姿が今も頭から離れないという。一人の活動が、みんなの活動に変化していくことで、また、それぞれの成長にもつながっていったと言う。学生時代のボランティア経験は間違いなく彼らのその後の人生に大きな影響を与えているのだ。

国内外問わず現代社会には、貧困、紛争、少子高齢化、多発する自然災害など多くの問題が山積みしている。それは意

気揚々と社会に飛び出した若者たちに不安を与え、進む方向を見失わせることがある。理想とする社会は、若者が“夢”を持てる社会である。その夢は、出世や金持ちなどその人限りではなく、貧困撲滅やすべての人の幸福など世界を変えるぐらいに大きな夢でなければならない。そんな夢を持ち続けることを可能とする1つに“ボランティア”がある。とりわけ、今回の支援者全体会では、三人の学生時代と今を知ること、学生のボランティア活動には大きな意味があることを改めて確認できた。

全国学生ボランティア交流見本市（アクションマーケット）

この日の夜には、43団体がアクションマーケットに出展し、当事業団もブースを出し、参加した。昨年夏に開催したグローバルワークキャンプの参加者が今回のフォーラムに参加していたので、学生達にグロキャンやボラキャンの活動紹介や募集案内をしてもらった。同じ大学生として、共感する部分も多く、たくさんの大学生が話を聞きにブースを訪れてくれた。見たこと、感じたことを伝える難しさ、新たなことにわくわくしながら話を聞いている学生達とのよい交流の機会となった。次回のグロキャンには、ここで話しを聞いてくれた学生が1人でも参加してくれることを期待したい。



《アクションマーケットの様子》

今年度の計画（会場は、共に、国立阿蘇青少年交流の家）
*第13回ボランティアワークキャンプ in ASO（高校生）
開催予定：8月11日～13日
*第6回グローバルワークキャンプ in ASO（大学生）
開催予定：8月20日～24日

クロージングシンポジウム

「地球のことは、「自分ごと」～SDGs 一人ひとりができること～

最終日のシンポジウムでは、昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンターの興格寛氏がコーディネーターとなり、社会の最前線で行動をしている3名（大橋 正明氏（聖心女子大学グローバル共生研究所 所長）、近藤 哲生氏（国連開発計画（UNDP）駐日代表）、渡部清花氏（WELgee 代表））とともに進められた。身近なところの課題とSDGsはどう繋がっているのか。まずは、自分たちにできることを身近なところから考えること。課題について考えることで想像力を広げること、答えの見えないディスカッションをすることで課題解決策を見つける力を養うこと、この3点が「学生」の参加者に期待することだとまとめられた。

3日間振返って

今回、私は支援者側として初参加させてもらったが、規模が大きいこと、また、シンポジウムや分科会で登壇された経験者からの講演はとても面白く勉強になった3日間だった。今後、私も学生に対し何か始めるきっかけを作れるような体験や好きなものに出会わせる機会、学生同士が積極的に話し合う場を作ることなど、「種まき」の部分を考えながら接していけるようになりたい。

「日本語クラスの名簿」

新学期になると日本語の教室でもクラス替えて学生の顔ぶれが変わり、クラス名簿が新しくなります。10年くらい前から中国人大多数の教室に徐々にネパール人が増え、学生の出身国も多様になりました。学生名簿をみていると、日本人と同様に名前にも流行があるようで10年前はネパール人の名前はアナンドラ、スレンドラ、ファギンドラ、と後ろに「ドラ」がついていましたが、最近では末尾に「ドラ」はみあたりません。中国人の名前は男性か女性か名前だけではわかりません。「強」「勇」「建」の名前でもかわいらしい女性の名前です。イスラム教の男子学生は「アブドラヒム」「アブドラハム」「アブデルハック」「アブデラハディ」、名前を忘れた時でも「アブドさん」といえばだれか振り向くので便利です。モンゴル人は父親の名前を苗字のように自分の名前につけているので、ドリゴルスレン・オヨンチェェグ(父親の男性名+自分の女性名)のように、女性は男性名と女性名がいっしょに名前にはいって女性を男性名で呼んでしまうこともあります。まだまだいろいろたくさん、新学期のクラス名簿は日本語教師の楽しみです。

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが繰るKIFのアクティビティ インターネットではもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>

皆さんこんにちは。私はKIFにインターンシップで来ている高山です。

インターン初日からとても新鮮で楽しい経験をさせて頂いています。昨日は、初級日本語集中講座という、外国から日本に来られている方々に、日本語の基礎を教える授業を見学させて頂きました。中国、韓国、メキシコ、ベトナム、タンザニアという五カ国の方がいらっしゃいました。外国の方が日本語を勉強している様子を見るのは新鮮で、私自身も日本人なのにはじめて知ることがいくつかありました。例えば、ひと月の初めの一日を「ついたち」と読むのは、皆さんなぜだか知っていますか？ついたちの「つい」は“月”と言う意味で、「たち」は“立つ”なんだそうです。



月が立つ=ひと月がはじまるという意味なんですね！恥ずかしながらはじめてしりました(笑)いい勉強になりました。残りの期間もいろんなことを吸収しながら頑張ります！

熊本市立総合ビジネス専門学校2年 高山 璃子さん
(インターン期間：平成30年3月6日～18日)



☆平成30年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。
会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
 - ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)
- 平成31年3月までの会員期間となります。

＜入会のお申し込み・お問い合わせ＞
一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

継続・新規ご加入 ありがとうございます。
(平成30年3月31日までにご加入いただいた皆様)

- 〔個人〕50音順(敬称略)
- ・金子 政利 ・金 範洙 ・清水ミノリ ・宮本 信子

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！
〔法人会員〕

- ・(一財)熊本市駐車場公社 ・アジア希望キャンプ機構
- ・熊本学園大学 ・熊本シティエフエム ・熊本日独協会
- ・熊本日米協会 ・崇城大学 ・ホテル日航熊本
- ・有限会社パラカロ



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩3分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前9時～午後8時
多文化共生オフィス TEL:096-359-4995(直通)
休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00a.m.-8:00p.m.
Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd

★平成27年10月1日より交通センター付近は熊本城ホール建設工事中です。シンボルロードが臨時バスターミナルとなっています。